

# 生体構造機能・病態解析学演習

[演習] 第1学年 前期 選択 2単位

《担当者名》 山口明彦 yama@hoku-iryo-u.ac.jp、西出真也、井上恒志郎

## 【概要】

運動器系組織を中心とした生体構造の機能および適応変化の解析に必要とされる研究手法として、特にヒトや実験動物を対象とした解析技術（生体サンプルを用いた遺伝子発現解析やタンパク質発現／翻訳後修飾に関する解析、免疫組織化学的解析など）について学習し、演習を通じて基本および応用的解析技術を身につける。

## 【学修目標】

生命科学分野・身体運動科学分野において必要とされる基本的・応用的解析技術を身につける。  
1ヒトを対象とした解析技術の選択、遂行、得られた結果の解釈を適切に行うことができる。  
2実験動物を対象とした解析技術の選択、遂行、得られた結果の解釈を適切に行うことができる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1～15	解析技術演習	生命科学分野における研究手法として、ヒト・実験動物を対象とした生理学、生化学および分子生物学的解析技術について概説し、種々の解析技術（体力測定、遺伝子発現解析、タンパク質発現、免疫組織化学的解析など）について学習する。	山口明彦 西出真也 井上恒志郎

## 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

## 【アクティブ・ラーニング】

導入している

## 【評価方法】

演習での取り組みおよびレポートによって評価する（100%）

## 【教科書】

特に指定しない

## 【参考書】

必要に応じて提示する

## 【学修の準備】

関連諸分野の文献等を各自調査し学修する。（予習・復習各120分）  
ヒトや実験動物を対象とした解析技術について学修する。（予習・復習各120分）

## 【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、保健・医療・福祉の分野において、リハビリテーション科学に関する高度な学識と研究能力を修得し、リハビリテーション科学の発展を通して社会に貢献できるというリハビリテーション科学専攻博士後期課程のディプロマ・ポリシーに適合している。